

所沢ロイヤルの丘 4Fしらかば通り 「口から食べられる生活を目指して」 資料			
月 日	食 事	排 泄	A D L
H22年 5 月	おやつ開始お煎餅を食べ始める。	ベッド上でのアイテム交換	離床時間を設ける。車椅子での散歩を始める
6 月	経管1100kcalへ変更昼食に全粥100gと海苔の佃煮と練り梅を提供する。		
7 月	副食（キザミ）も始める。		車椅子の自操開始。
10月	昼の経管栄養を中止。（朝、夕で800kcal）		日中パジャマから私服へ着替える。
11月	希望にて全粥から軟飯に変更。	2人介助にてトイレ誘導。トイレでの排泄可能。	車椅子で30分～45分過ごすことができる。
H23年 1 月	昼食、普通食全量摂取。	1日1回トイレ誘導実施。	離床時間の延長。車椅子で1時間過ごす。
4 月	夕食も普通食で開始。経管栄養は朝のみ行う。（朝、400kcal）	1日2回トイレ誘導実施。	食事席から居室まで車椅子自操する。
8 月	1日3食開始。経管栄養中止。朝は高カロリージュースをつけ、飲みきれない分を胃瘻から注入。	1日3回トイレ誘導実施。	
11月	外出に行き、うどん1杯完食。食事形態をキザミから一口大へ変更。	1日4回トイレ誘導実施。	ユニットで新聞を読む。職員や他利用者と談笑する。
H24年 1 月	朝の高カロリージュース中止。	アイテム内の失禁量が減ってくる。	
4 月		本人の意志でトイレに向かうことが見られる。	車に乗ってお花見に外出。
5 月	P E G 抜去施行。	アイテム内汚染なく排尿できるようになってきた。	車椅子自操中、障害物などをよけられる。
現在	3食6割～全量摂取。	トイレ1日4回継続	車椅子自操継続、外出可能。

能や生活機能の向上、体重増加に繋がったといえ、K氏の病歴と胃瘻造設の経緯から口腔摂取は可能だと判断し、少しずつ口から食べる事を始めたことにより、消化器官活動の活性化に繋がると共に、免疫力の高まり、生きる気力と体力の回復へと繋がっていったと考えられます。

ユニット内でおやつや食事の時間を他の利用者様や職員と一緒に過ごす事で、安心感が得られ食べる楽しさを感じることが出来、生活意欲の高揚がはかられたのではないかと考えられます。

また、一緒にいてくれる利用者や職員が居るユニットで他者と関わりをもつ事で、楽しみや安心を感じることが出来たと考えられており、新聞と一緒に読んでもらったり談笑したりする事で時間の経過を忘れ、いつのまにか離床時間を延ばしていくことが出来たのではないのでしょうか。

K氏は入所当時アイテムでの排泄でしたが、それではますます活動の幅が狭くなるという障害を生み出していたと考え、便座での座位の保持がどうにか可能であった為、職員二人介助でトイレへの誘導を始めた事で、自然な形で排泄が出来たのではないと思われる。トイレでの排泄が出来た事で、自然な形で排泄が出来たのではないと思われ。トイレでの排泄が出来た事で、自然な形で排泄が出来たのではないと思われ。

このように、食事・排泄・ADL面が相互に関連し合う事で、生活機能が向上

していったと考え、K氏自身の表情や言動の活性化が図られることに、OOLの向上にも繋がったのではないかと考えております。

終わりに

今回、胃瘻造設で寝たきりの状態であっても、あきらめずに食事・排泄・他者との関わり等様々な側面からアプローチすることが、相互に良い影響をもたらしました。他の利用者に関しても現在の状態をアセスメントし、日々のケアに反映させることで、更に機能回復を図る事が可能なのではないかと考えます。

引用・参考文献

- ・「老人学」海拓舎 毒蝮三太夫、井上勝也著 2000
- ・「自立排泄の重要性」排泄ケアナビ

本題の口コモにおいては、まず、口コモチェック、としてアンケートと体力テストを行い、身体機能の衰えを直に感じて頂きました。その後、多くのイラストと写真を提示しながら



約25名の参加があり、大変興味を持って聞いていただけました



参加者にも実践してもらいながら講義をしました

「とよかわ健康づくり計画」を紹介し、地元における健康への関心を啓発しました。

講演では、豊川市が取り組んでいる「とよかわ健康づくり計画」を紹介し、地元における健康への関心を啓発しました。

発生起因や予防策（運動と食事）についてユーモアを交えて分かりやすく説明すると共に、自宅で出来る簡単な自主トレーニングを全員で実践しました。

講演後、参加されたお一人おひとりと言葉を交わしたところ、身体機能の悪化や疼痛により生活に支障を来しているという悩みや相談を数多く受け、微力ながら私なりに助言させて頂きました。地域には、介護予備軍とされる高齢の方が多く生活されています。今後も、このような機会を通じて、地域にお住まいの方々のお役に立てればと考えております。

ロコモティブシンドローム講演会

医療法人啓仁会
介護老人保健施設 たんぽぽ（愛知県豊川市）
リハビリテーション部 副主任 理学療法士 林 亮一

ユニチャーム <http://carenavi.jp/about/itsuhaisetsu>

- ・「排泄ケアは介護の基本」排泄ケアナビ ユニチャーム <http://carenavi.jp/about/kinon.html>
- ・「TENAFワークシヨップ2 真の自立につながるトイレトレーニング」梶原敦子監修 2004
- ・「口から食べる、嚥下障害O&A」中央法規 藤島一郎著 1995
- ・「高齢者の栄養、現状と対処法」http://www.long-life.net/new_page_269-1.htm



左から 栗原恵美子、松浦秀和、岡本圭介